

# 農作物病害虫発生現況情報（7月） ねぎ編

## 1 さび病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は10.0%（平年36.0%）であり、平年より低かった（図1）。

## 2 べと病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生は確認されなかった（平年17.0%、図2）。

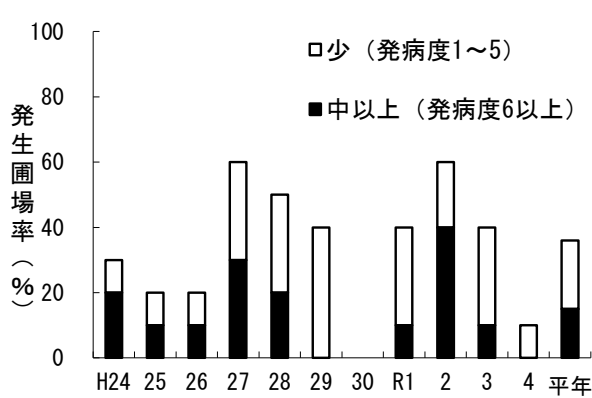


図1 さび病の発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

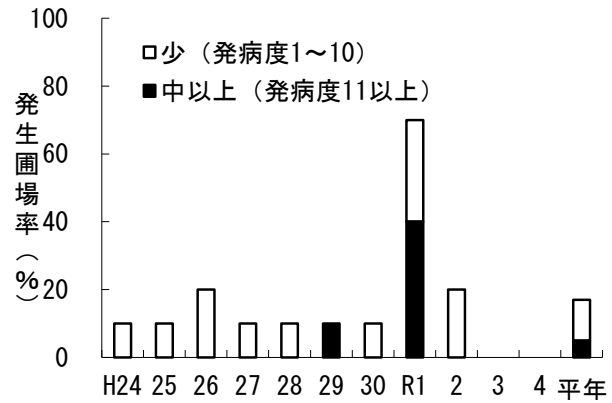


図2 べと病の発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

## 3 黒斑病・葉枯病

(1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は70.0%（平年34.0%）であり、平年より高かった（図3）。

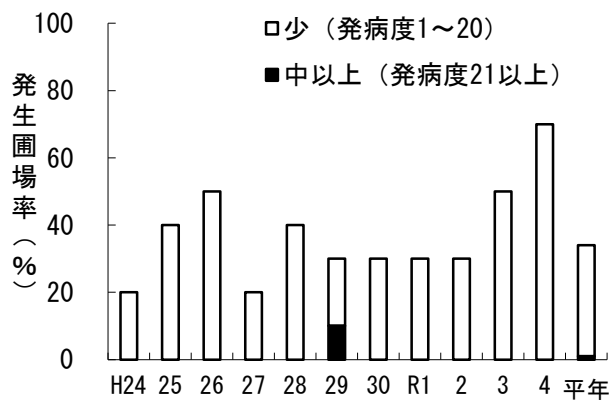


図3 黒斑病・葉枯病の発生圃場率の年次推移 (7月下旬)

#### 4 ネギコガ

- (1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は20.0%（平年37.0%）であり、平年より低かった（図4）。  
 (2) 時期別の被害葉率は、7月上旬・下旬ともに平年より低かった（図5）。

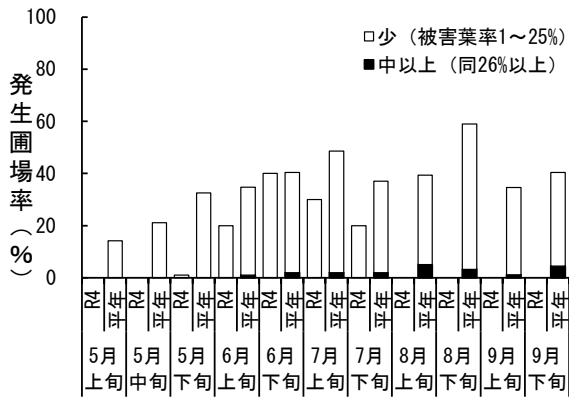


図4 ネギコガの発生圃場率の時期別推移

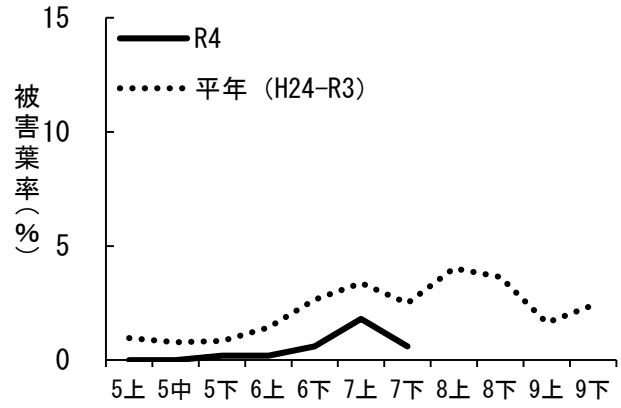


図5 ネギコガによる被害葉率の時期別推移

#### 5 ネギハモグリバエ

- (1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は40.0%（平年62.1%）、被害程度中以上の圃場率は10.0%（平年19.4%）であり、ともに平年より低かった（図6）。  
 (2) 時期別の被害度は、7月上旬・下旬ともに平年より低かった（図7）。

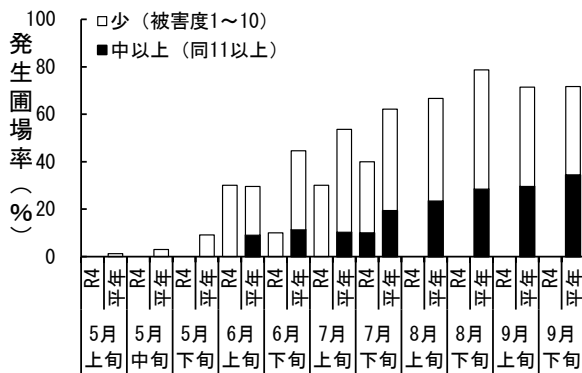


図6 ネギハモグリバエの発生圃場率の時期別推移

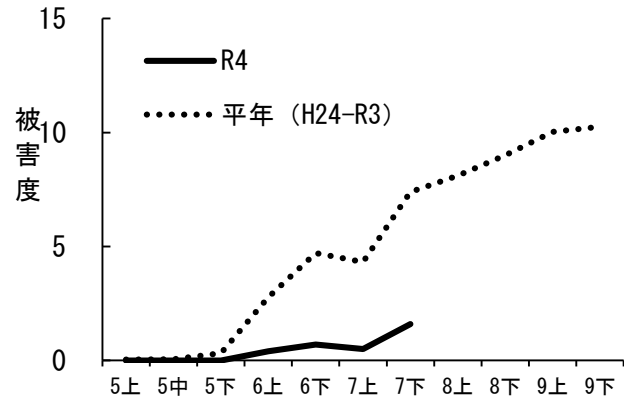


図7 ネギハモグリバエによる被害度の時期別推移

【被害度】調査株の被害程度を甚・多・中・少・無の5段階で評価し、次式により算出

$$\text{被害度} = \frac{(\text{甚の株数} \times 4 + \text{多の株数} \times 3 + \text{中の株数} \times 2 + \text{少の株数})}{(\text{調査株数} \times 4)} \times 100$$

## 6 ネギアザミウマ

- (1) 7月下旬の巡回調査では、発生圃場率は100.0% (平年88.0%)、被害程度中以上の圃場率は70.0% (平年46.8%)であり、ともに平年よりやや高かった (図8)。
- (2) 時期別の被害度は、平年並で推移している (図9)。

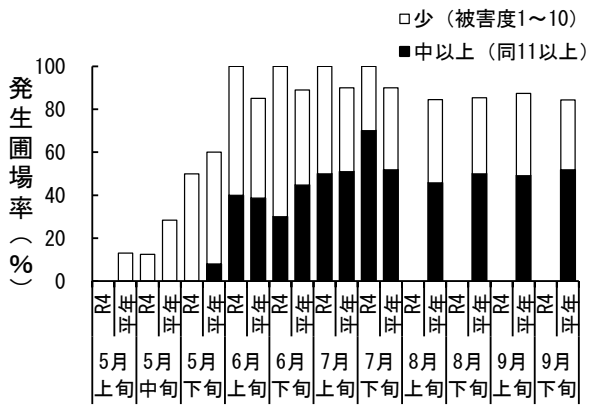


図8 ネギアザミウマの発生圃場率の時期別推移

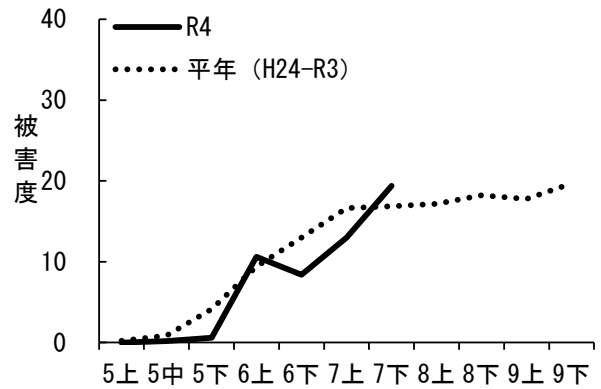


図9 ネギアザミウマによる被害度の時期別推移